

第 27 回榎野川河口域・干潟自然再生協議会会議要旨

1 日 時

令和 2 年 2 月 24 日(月・振) 9:00~11:30

2 場 所

セミナーパーク研修室 202 (山口市秋穂二島 1062)

3 主催

榎野川河口域・干潟自然再生協議会

4 出席者

29 名(委員 22 名、委員外 7 名)

5 内 容

(1) 開会挨拶要旨 (浮田会長)

- ・今年度は「ふしの干潟いきもの募金」を通じて、各委員が主体的に企画した取組が始まり、サントリー世界愛鳥基金を活用した「クロツラヘラサギを守るための海岸清掃・潮干狩り」など、様々な資金を活用した取組も実施され、活発化している。
- ・自然再生協議会全国会議が、榎野川河口干潟で開催され、国の環境基本計画で示された「地域循環共生圏」の創造に向けた全国的な先進事例として、紹介された。
- ・現在の第 8 期の委員の任期がこの 3 月末で満了し、第 9 期委員の公募案内もある。委員の皆様におかれましては、次期からも引き続き、御協力を賜りたい。
- ・昨年度に引きつづき、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社山口支店様から、地域貢献・社会貢献の一環として、本協議会に 150 万円の寄附が贈呈され、贈呈式を行う。同社や、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会においては、昨年度の連携協定を機に、募金だけではなく、本協議会の活動にも積極的に参加いただいている。「産学官民の連携」をより深めて参りたく、引き続き皆様の御協力をお願いする。

(2) 議事

① 令和元年度活動報告概要 ~事務局 上原~

資料 1 のとおり。集計中の事項もあり、最終版を次回協議会で提示予定。

② ふしの干潟いきもの募金の支援対象活動の経過報告 (資料 2 は添付省略)

ア 二枚貝モニタリング調査及び藻の付着影響調査について

~環境保健センター 環境科学部 川上専門研究員~

イ 榎野川河口干潟の地形・流状および土砂環境モニタリング

~山口大学大学院 創成科学研究科 助教 白水 元~

ウ 干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究

Part1: 山口湾の干潟域におけるクロダイの食性と炭素・窒素安定同位体比 - アサリ等砂浜性二枚貝の重要性とその資源への負のスパイラル

~瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ○重田 利拓、辻野 睦~

エ 干潟域を生活史で利用する魚類の生態と成育場の生息環境に関する研究

Part2: 山口湾の干潟域におけるアサリと線虫の関係-被覆網設置後のマクロベントスと線虫の変化

~瀬戸内海区水産研究所 生産環境部 干潟生産グループ○辻野 睦、重田 利拓~

③ 令和 2 年度の活動について

- ・資料 3 のとおり。
- ・第 2 回ふしの干潟いきもの募金の支援対象活動の募集を開始 (2/25~3/16)
- ・「榎野川河口干潟再生活動 2020 (春の干潟耕うん)」は、R2. 4. 25(土)実施予定。実施内容も例年通りだが、新型肺炎の状況を見ながら、適宜開催について検討。

(3) 第9期協議会委員の募集

- ① 第9期委員の募集 (3/2(月)～3/31(火))
- ② 委員の就任について

山口大学大学院創成科学研究科 赤松良久 様から、第8期からの委員への応募があり、協議会で諮ったところ、全会一致で承認された。

<応募理由>

山口大学の環境 DNA 研究センターのセンター長を務めており、環境 DNA を用いた山口湾のアサリのモニタリング法を開発し、資源管理に貢献したい。

<活動歴>

応募者は河川工学、環境水理学を専門として、流域における環境管理に関する研究を約15年にわたって実施。

(4) あいおいニッセイ同和損害保険株式会社からの寄附金の贈呈式

- ① 概要

昨年度に引きつづき、あいおいニッセイ同和損害保険株式会社山口支店寺尾支店長から、榎野川河口域・干潟自然再生協議会浮田会長に、寄附金として150万円が贈呈された。

同社は、昨年度に締結した連携協定に基づき、あいおいニッセイ同和山口支店プロ会と共に、多くの方がボランティアとしても参加しており、連携協定を締結した浮田会長、県環境生活部徳重審議監及び山口市環境部中村部次長から謝辞があった。

- ② 写真



<寺尾支店長から浮田会長への贈呈>



<飯田山口支店山口第二支社長、寺尾支店長、浮田会長、県環境生活部徳重審議監、市環境部中村部次長>

- ③ 取材

山口新聞及び読売新聞 (2/25 掲載)